

環境会計

当社の取り組み

当社では環境会計を「企業活動の中で環境に関する活動に要した設備額・費用額を把握・公表するしくみ」と捉え、1999年度より環境会計の公表を始めています。公表に際して課題となったのが「いかにして費用に対する効果を定量的に算出するか」ということです。今回は現在社会的に認知された統一基準がないことなどを考慮し、「クリモト環境報告書2000」報告での環境会計の達成レベル5段階の2段階で報告いたします。2000年度の環境保全コストの集計結果は下表の通りです。

(社)大阪工業会発刊「環境会計の手引き」より

環境保全コストの分類

環境省の「環境会計システム導入のためのガイドライン(2000年版)」のフォーマット「公表用A-1表」の分類によります。

2000年度集計の結果

- (1)事業エリア内コスト:防音対策、集じん機維持管理などによる公害防止コスト、工場内緑化による環境保全コスト、廃棄物処理・リサイクルコストなどのトータルコストが764百万円となっています。
- (2)上・下流コスト:ウエス、マットの再生品使用、軍手洗濯再利用費用3百万円。
- (3)管理活動コスト:ISO14001取得・維持、社内外環境教育、監視測定などのコストが69百万円。
- (4)研究開発コスト:生ごみメタン発酵処理技術実証試験、有害汚染物質無害化など2,508百万円。
- (5)社会活動コスト:地域(住之江)コミュニケーション活動への参加、公園清掃、植林など5百万円。
- (6)環境損傷コスト:汚染負荷料賦課金18百万円。

(1)から(6)の合計は3,367百万円で前年度4,095百万円(換算)に比べ728百万円減となっています。

2000年度環境会計

環境保全コスト			
分類	主な取り組みの内容およびその効果	投資額	費用額
(1)生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	発生源設備減価償却、労務費、電力費、消耗品費、維持管理費	56	708
(内訳)			
公害防止コスト	工場防音対策、集じん機などの管理費	(50)	(457)
地球環境保全コスト	自動消灯、工場緑化	(6)	(4)
資源循環コスト	産業廃棄物委託費	(0)	(247)
(2)生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	再生品使用、再利用	0	3
(3)管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	ISO14001取得	0	69
(4)研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	生ごみメタン発酵処理技術実証試験、有害汚染物質無害化など	85	2,423
(5)社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	NGO活動、地域活動、周辺緑化	0	5
(6)環境損傷に対するコスト(環境損傷コスト)	汚染賦課金	0	18
	(合計)	141	3,226

集計範囲:全社(本社と7工場) 対象期間:2000年4月1日～2001年3月31日 単位:百万円(単位未満四捨五入)